

《令和 6 年度の経過と評価》

すたあとのテーマである「いつまでも、その人らしく住み慣れた地域で社会の一員として」生活し続けられるよう多様なニーズに応え、地域生活の中で本人に寄り添う支援を目指してきた。居宅介護については、利用者の都合（環境の変化等）により定期的な利用者の利用内容（頻度等）の変更や利用を中止するケースもあった。相談員との連携、事業所内で情報共有をすることで、大きな混乱もなく乗り切ることができた。ただ複数の事業所（訪問看護も含む）が入っている利用者については、事業所間での役割分担、訪問看護との連携などまだ不十分なところがあった。まずは日頃からしっかりと利用者ニーズを把握し、事業所内で情報共有を図る。また必ず相談員と連携し、事業所間での役割分担を明確に行うことで、利用者（家族）、職員が不安や困りごとがないよう努める。

短期入所については、家族の緊急時の受け入れを行い、法人内の兼務職員の協力を得て宿泊利用が可能となったケースもあった。利用者ニーズの多い短期入所宿泊は、職員体制が難しい現状もあり週 2 日（水・金曜日）の稼働日に留まった。

今年度は、全体的に利用実績が減少し、また事業所の方向性が見えにくいなどもあり、業務に負担を感じている職員の声が聞かれた。労務管理、業務管理においても管理者が事業所全体をしっかりと把握し、他職員とも協力しながら課題分析（改善事項）を行わなくてはならない。

来年度は、今一度職員の状況（勤務希望等）を把握し、また法人内の兼務職員の協力を得ながら人材確保、協力体制、利用調整、特にコミュニケーションなどに注力し、円滑な事業運営管理を目指していきたい。

また地域へ向けた取り組みがほとんど実施できなかったのも、地域へ向けた部屋の貸し出し（空きスペースの有効活用）、マルシェやマザーズサロン、地域との防災訓練などの行事を計画的に実施し、地域の方々との交流を図っていきたい。

【短期入所】

利用者（家族）からニーズの多い事業だが、宿泊職員の確保が難しく週 2 日（水・金曜日）の稼働日に留まった。依然として週末（土曜日）のニーズが多く、新規の利用希望の話もあるため、人材確保、利用調整等、できる限り工夫して稼働日の増加を目指す。

自然災害時（大雨、台風等）は、天気予報・警報を察知し、安全を最優先として利用中止としたケースもあった。職員、利用者（家族）に対して早めに判断することで安心に繋がった。

事業所での過ごし方（活動内容等）がマンネリ化しているところもあるため、職員間で共有し利用者が安心して尚且つ充実した生活が送れるよう新たに 1 つでも実践する。

【居宅介護】

年度途中、頻度の高い定期的な利用者の利用が中止となり（利用者の都合により）、利用実績が減少したが、新規の利用依頼も数件あり、ヘルパーの勤務体制に大きく変更なく対応できた。事業所内外において 2 人体制の利用が増えてきており、複数の目で気づくことができるメリットがある反面、急な交代時の人材確保が難しい。日頃から相談員や他事業所と連携し、必要な人材を整えていきたいが、職員が負担にならないようきめ細かな利用調整等を行う。

【行動援護】

利用人数としては若干名の利用者のみとなっているが、毎月定期的に利用受け入れができた。

行動援護は、支援度の高い利用者のため、幅広く受け入れすることは難しいが、今ある利用者ニーズをしっかりと受け止め、可能な限り利用実績を増やし、また対応できるヘルパーも少しずつ増やしていけるようにする。（2人対応や同行などで支援方法を共有）

【移動支援】

外出希望は徐々に増え、特に平日の夕方は、定期的な利用（散歩等）を行った。休日の長時間の希望などは土・日曜日に集中しているため多くの受け入れは難しいが、法人内の兼務職員の協力を得ながら少しずつ利用者ニーズに応えていける支援体制を整える。

天候（雨天時や熱中症対策等）による利用キャンセルについては、曖昧な部分もあるため、事業所での基本的な指針を決めて、利用者（家族）、関係事業所等に周知できるようにする。

【日中一時】

平日の夕方、定期的な短時間の利用受け入れを行った。その他、家族の緊急時に受け入れを行った。事業所で送迎ができないため、家族、他事業所の協力を得ながら引き続き緊急時等必要の対応を行う。

【福祉有償運送】

現状、他の福祉サービス（主に通院介助）と組み合わせて利用している。年々利用件数は、減少傾向にあるが、利用者によっては欠かせないサービスとなっている。近年のタクシー料金値上げに合わせて、適正な運営ができるよう料金（運賃）の見直しが必要となる。また今年度より豊橋市内では自事業所のみとなっているため、利用者ニーズを把握しながら来年度以降の運営体制も合わせて検討していけるようにする。

《重点課題に対する取り組み》

（１）運営基盤・運営体制の強化

利用者が様々な福祉サービスを利用しながら安心して地域で暮らすことができるよう広い視野を持ち一つ一つ丁寧な対応を心がけた。特に居宅介護では、利用者状況を共有しながら健康維持や生活の質の向上を目指し取り組んできたが、相談員や他事業所との連携においては、まだ不十分さを感じた。人員不足から一部の職員の負担増も見られるため、改めて勤務希望の把握や利用調整等を見直し、職員が負担や不安を感じることなく、利用者支援を行えるようにする。そのためには、現状、すたあとの人員のみでは利用者ニーズに応えていくことは難しいため、法人内の兼務職員の協力を得ながら、新規の人材確保（現在の職員から徐々に引き継いでいける体制作り）も合わせて行っていきたい。

（２）人材育成・支援力の向上

居宅介護においては、利用者ニーズが多様化しその場において臨機応変な支援が必要な場面も多いため、LINE グループを使用しリアルタイムで共有できるようにした。また複数で利用者支援が

できるよう調整し、職員一人で考え込まないようにした。課題を共有することで安定したサービスを行えるよう努めたが、急な予定変更（交代時）の場合は、人材確保が難しく継続課題となった。

利用者家族満足度調査を行い、事業所への意見・希望・改善点等を求めたが、今年度は回答数が少なく改善点などを検討するまでには至らなかった。

また支援力の向上については、具体的な研修、勉強会などほとんど実施できなかった。来年度は、法人全体研修の振り返り、ほっとびあの福祉出前講座、外部研修の伝達研修など計画的に実施していきたい。

ヘルパー会議を始める前にアイスブレイク（簡単な体操、手遊び等）を行うことで話しやすい場となるよう努めたが、徐々にマンネリ化している様子も見られた。全体で会議の目的を再確認し、いい雰囲気作りをして、活発な議論ができるようにしていきたい。

職員研修

6月	第1回法人全体研修	救命救急／感染症対策
9月	第2回法人全体研修	法人をより良くするためのプレゼンテーション
12月	第3回法人全体研修	虐待防止「アンガーマネジメント」
3月	第4回法人全体研修	BCP／たんぽぽルームの未来について

防災計画・安全管理・防災訓練

すたあととは、土砂災害危険区域に立地しているため、職員、利用者（家族）に危険性を周知し、災害時の避難先・避難方法を居宅、短期入所において明確なマニュアルを作成する必要がある。事業所内に関わらず訪問先・外出先等での災害（地震・火災等）は予期できないこともあるため、ヘルパー会議内において職員間で災害時のシミュレーションを行った。

防災警戒レベルについて（情報共有・対応策）

防災マニュアルの確認、防災用品の使用方法的確認、非常食確認、避難経路確認

利用者外出先等（送迎中・訪問先・利用者通院等）を想定し避難方法の情報共有、確認
日頃からの情報共有、確認等を行い防災の意識を高めていき、職員、利用者が安心・安全に利用できるよう努めていきたい。

環境整備

大掃除の実施（5月・8月・12月） ※5月にウッドデッキ塗装（1回）を行った。

毎月1回奏楽（楽々班）に草取りを依頼し、職員・利用者により建物周り、敷地内の草取り、草刈りを行った。今年度は、童里夢（雑貨班）の協力も得て、樹木の成長により塀やフェンス等に圧迫、道路にはみ出している部分について伐採した。

普段、なかなか手がつけられていない公用車の洗車については、童里夢（雑貨班）の協力を得て行うことができた。今後、雑貨班が洗車事業を行っていくため、来年度は定期的に洗車を行うものとする。

利用実績（R6.4.1 R7.3.31）

（１）指定居宅介護等事業

①居宅介護	－	男：１５名	女：２６名	【 計：４１名 】	} 【合計：４５名】
②行動援護	－	男： ２名	女： ２名	【 計： ４名 】	
③重度訪問介護	－	男 ０名	女： ０名	【 計： ０名 】	
④移動支援	－	男：１４名	女：１１名	【 計：２５名 】	

（移動支援事業）

ヘルパー利用 ： 指定居宅介護等事業（行動援護を含む）、指定移動支援事業

※実績人数は利用実人数

月		居宅介護 身体介護	居宅介護 家事援助	居宅介護 通院介助	行動援護	移動支援 身体あり	移動支援 身体なし	合 計
４月	実績人数	15	9	9	3	10	4	50
	実績時間	156.2	40	21.55	7.15	44	10	278.9
５月	実績人数	16	7	7	3	10	3	46
	実績時間	143.15	31.3	18.3	4.15	38	8.5	243.4
６月	実績人数	14	7	7	4	9	4	45
	実績時間	112.25	28	24.7	16	52	9	241.95
７月	実績人数	15	7	10	2	8	4	46
	実績時間	114.45	25.3	5.3	3	51	12	211.05
８月	実績人数	14	7	7	3	6	3	40
	実績時間	95.45	20.45	17.85	8	34	7	182.75
９月	実績人数	14	8	9	4	10	3	48
	実績時間	110.45	23	18.7	5.15	67.5	9.5	234.3
１０月	実績人数	14	11	7	2	11	4	49
	実績時間	112.45	51.4	29.4	21.45	58.5	18	291.2
１１月	実績人数	14	10	10	2	12	4	52
	実績時間	103.3	42.45	25.55	11.3	65.5	17.5	265.6
１２月	実績人数	13	11	6	3	10	3	46
	実績時間	95.35	51.3	6.3	12.15	55	17	237.1
１月	実績人数	13	9	9	3	11	2	47
	実績時間	86.1	42	14.8	8.3	58.5	14.5	224.2
２月	実績人数	13	10	11	3	9	4	50
	実績時間	94.45	43.15	27.95	11.3	54	16.5	247.35
３月	実績人数	13	10	11	3	9	4	50
	実績時間	72.3	43.3	22.8	18.2	51	18.5	226.1
合 計	実績人数	168	106	103	35	115	42	
	実績時間	1295.9	441.65	233.2	126.15	629	158	
月平均	実績人数	14.0	8.8	8.6	2.9	9.6	3.5	
	実績時間	108.0	36.8	19.4	10.5	52.4	13.2	

(2) 指定短期入所事業

男：24名 女：19名 【 計：43名 】

区 分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	障害児
人 数	0	1	1	15	12	12	2

実績人数・宿泊日数

※実績人数は利用実人数

月	実績 人数	宿泊 日数	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	障害児	平均 人数 (1 日)
4月	16	12	0	0	2	24	8	22	0	4.9
5月	16	9	0	0	3	23	4	15	0	4.7
6月	17	12	0	0	2	25	10	21	0	4.9
7月	18	10	0	0	4	22	9	20	0	4.8
8月	17	10	0	0	0	18	8	14	2	4.8
9月	18	12	0	0	0	26	8	18	2	4.7
10月	16	14	0	0	2	26	6	22	2	4.8
11月	18	14	0	0	0	30	8	26	0	4.9
12月	19	16	0	2	0	22	14	22	2	4.8
1月	21	11	0	0	0	32	13	19	0	4.8
2月	23	17	0	0	0	40	16	25	0	4.8
3月	20	14	0	0	0	37	9	30	0	4.9
合 計	219	151	0	2	13	325	113	254	8	57.8
月平均	18.25	12.58	0	0.17	1.08	27.08	9.42	21.17	0.67	4.82

(3) 指定日中一時支援事業（地域生活支援事業）

男： 3名 女： 0名 【 計： 3名 】

※実績人数は利用実人数

月	実績 人数	延べ 人数	利用 日数	身体介護 伴わない	身体介護 伴う	重心	平均人数 (1日)
4月	2	9	8	0	2	0	1.13
5月	2	11	8	0	2	0	1.38
6月	2	10	8	0	2	0	1.25
7月	3	12	8	1	2	0	1.50
8月	2	9	8	0	2	0	1.13
9月	1	8	8	0	1	0	1.00
10月	1	13	13	0	1	0	1.00
11月	1	12	12	0	1	0	1.00
12月	2	9	8	0	2	0	1.13
1月	2	10	8	0	2	0	1.25
2月	1	8	8	0	2	0	1.00
3月	1	8	8	0	2	0	1.00
合 計	20	119	105	1	21	0	13.75
月平均	1.67	9.92	8.75	0.08	1.75	0	1.15

(4) 福祉有償運送事業

男： 4名 女： 6名 【 計： 10名 】

月	移 送	
	実人数	回数
4月	8	13
5月	6	12
6月	6	8
7月	3	5
8月	5	7
9月	6	8
10月	4	7
11月	5	8
12月	5	5
1月	3	5
2月	6	8
3月	4	5
合 計	61	91
月平均	5.08	7.58

